

## 行政視察報告書

平成31年 2月 8日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 藤井 義明  議員 蔵本 隆文   
 議員  議員   
 議員  議員 

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

### 記

【1】 熊本県 人吉市議会

住 所	熊本県人吉市下城本町1578-1
電 話	0966 (22) 5381
視察案件	ほっとステーション九ちゃんクラブハウスについて
期 日	平成31年 2月 4日(月) 13時20分から15時00分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	ほっとステーション九ちゃんクラブハウス ----- 人吉市九日町16
概 要	<p><b>1 視察目的</b></p> <p>商店街の空き店舗を活用し、子育てサークルの充実を図り、それと同時に商店街の活性化という両面で機能している取り組みは、笠岡市の子育て事業、空き店舗が増えている商店街の活性化の対策事業に役立てる。</p> <hr/> <p><b>2 人吉市の概要</b></p> <p>平成30年12月末現在、人口32,647人(外国人を含む)、世帯数15,596世帯である。面積は210.48km<sup>2</sup>で、市の中央部を球磨川が東西に貫流している。気候は、内陸性気候に属し、寒暖差が激しく、名物である濃霧が良く発生する。平均気温は、15～16℃、年間降水量は3,000mm弱で、一年中温暖多雨である。</p> <p>位置的には、熊本県の南部、人吉市盆地の西南端で、南は鹿児島、宮崎県に接して</p>

おり、熊本、宮崎、鹿児島の3都市へ約1時間でアクセスできる。

### 3 ほっとステーション九ちゃんクラブ

人吉市の子育てサークル「てくてくサークル」は、人吉市保健センターと保育所に併設され活動をおこなっていた。

しかし保健センターや、保育所との併設拠点施設であるため、職員の業務の時間的制約と、何より自由に集まれる場所としての制約が有り、平成16年に自然解散にいたる。

その後、子育てサークルの人々の強い思いで、人吉市、商工会議所、商店街39店舗と協議を重ね、「地域との連携による商店街魅力創造事業」を利用し、平成17年5月に実行委員会を発足し、商店街の空き店舗スーパー3階が子育て支援拠点施設として開放されることが決定し、「九ちゃんクラブ『ふれあい広場』」が新たにスタートすることになる。九ちゃんの名は、九日町の町名が由来である。

平成22年8月には、商店街の中のスポーツジム空き店舗に移した。その理由に、スーパー3階では、ベビーカーの利用や、気軽に立ち寄るのが不便であることが大きな理由であったようだ。

開所日： 毎週 月、火、木、金

時間： 午前10時～午後4時

料金： 無料

対象： 3歳未満の児童と、その保護者

条件： 会員登録が必要

### 4 視察内容

#### (1) 予算

歳入 地域子育て支援拠点事業 国 1,261,000円 県 1,261,000円

利用者支援事業 国 695,000円 県 695,000円

合計 3,912,000円 (国1/3 県1/3)

歳出 地域子育て支援拠点事業 4,605,000円 (委託料、賃貸料等)

子育て応援担い手育成事業 501,000円 (委託料)

利用者支援事業 2,085,000円

合計 7,191,000円

歳入不足分は、市が負担

#### (2) 委託先

保育サポーター「陽だまりの会」(会員16名)

#### (3) 運営体制

2名/日で行う。4名でローテーションを組む。

子どもが多い時は、ボランティアに来てもらい対応する。

#### (4) 活動内容 (預かり以外)

・商店街との体験ツアー

味噌づくり、抹茶体験等 (材料費の一部を負担してもらう)

・商店街との交流イベント

地域イベントに参加

#### (5) 利用者数 (親も含む)

平成29年 年間数 5,712人 29.8人/日

平成29年 年間数 4,492人 23.2人/日

利用者数は、減少傾向である。

幼稚園児については、夏冬の長期休暇中には受け入れている。それについては、3歳児未満の子の世話をするスタッフ的な役目もさせている。  
今後の減少対策については、就学前児童の受け入れも考えている。

#### 5 視察を終えて

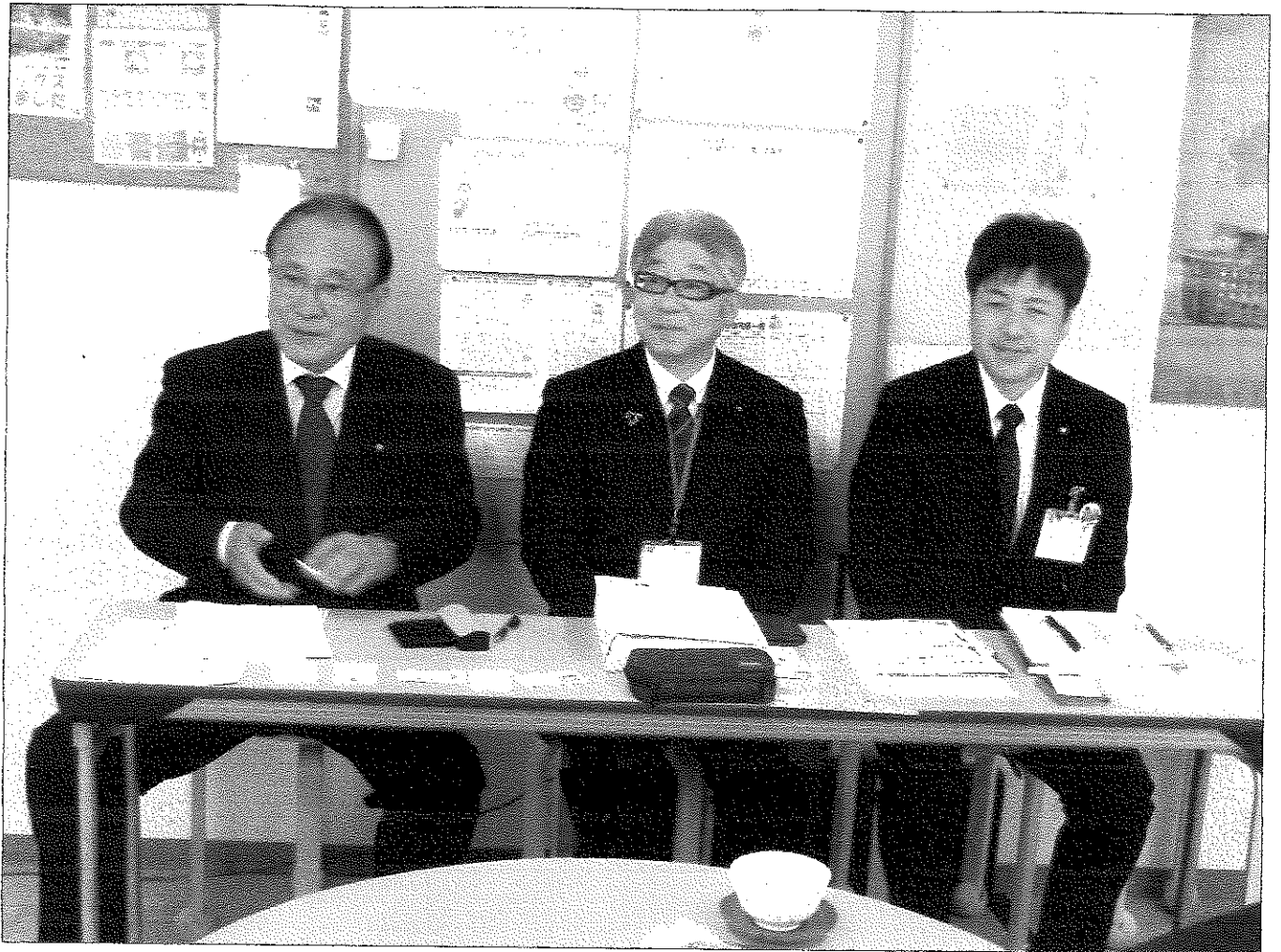
商店街の中に、空き店舗を利用した3歳児未満の受け入れ施設は、急な用事が出来た時や、保育所、子ども園に入っていない親にとってはありがたい施設であろう。今年10月から保育料無償化になることで、利用率に影響を及ぼすことが予想できる。その点を今から対策を考えておかななくてはならないだろう。

商店の方に経済効果を聞いたが、「あまり反映は出来ていないが、商店街を今までよりは身近に感じてもらっている。」という答えであった。視察後に近隣の商店を見て回ったが、若い母親に魅力のある構成にあまりなっていない点を考えたら、商店街もこれをきっかけに、商店街の店構成を見直すことにより、可能性はあるのではないかと思われる。また、その点を丸ちゃんクラブ利用者と計画を立てることで、商店街の活性化により若い人の定住にも繋がるのではないかと思われる。

添付書類

視察資料     視察状況写真     名刺





【2】 熊本県 人吉市 ひまわり亭

住 所	熊本県人吉市矢黒町1880-2
電 話	0966(22)1044
視察案件	地域活性化について ひまわり亭代表取締役 本田氏の講演
期 日	平成31年 2月 5日(火) 10時00分から13時00分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	ひまわり亭 ----- 人吉市矢黒町1880-2
概 要	<p><b>1 視察目的</b> 地域のボランティアグループで、地域の主婦たちによる地産地消の農村レストランを立ち上げた成功事例である。そのノウハウがどのようなものかを、代表取締役である本田節氏の講演を受ける。</p> <p><b>2 人吉市の概要</b> P1に解説済</p> <p><b>3 ひまわり亭</b> 名称：有限会社ひまわり亭 代表：本田節（代表取締役） 実績：2011年 レストラン・弁当年間売り上げ 約6,000万円 利用者数 5万人 稼働日数 年中無休</p> <p>(1) 取り組みの内容 1998年に、地域のボランティアグループ「ひまわりグループ」のメンバーとともに地域の主婦たちによる地産地消の農村レストランを立ちあげる。 「もったいない」をキーワードとし、地域の財産ともいえる「おばちゃん、おばあちゃんの知恵・経験・技・感性」を活かさないのは「もったいない」、地域のすばらしい食材を活かさないのは「もったいない」、取り壊し寸前の地区120年の古民家が「もったいない」、ということで古民家を移築したお店を拠点に地域の素材をできる限り活用し、安心安全な食材を提供。 他の活動として ・「食」を通して、地域づくりへの貢献、食育活動 ・女性の起業アドバイス ・グリーンツーリズムの推進 ・学生インターンの受け入れ</p> <p>(2) 工夫した点・苦勞した点 地域の抱える課題、高齢化、少子化、過疎化、産業低迷などのマイナスイメージを逆手に取ったコミュニティビジネスとした。 高齢者雇用、地産地消、食育の実践キャンパス。 農村レストランをコアとした広域連帯型グリーンツーリズムの展開。</p>

#### 4 視察内容（講演内容）

雇用は、国のゴールドプランが基本的な考え方で、ひまわり亭では、40～70歳代の主婦を中心に雇用している。

「待ってました、定年60歳新入社員」「生涯現役」をうたい文句に、雇用を展開している。一流のシェフではないが、一流の主婦がいる。その主婦力を発揮したい、という強い思いがある。現在は、子育て支援として、20～30代の雇用もプラスしている。

##### (1) ひまわり亭立ち上げについて

ひまわり亭の立ち上げにおいては、行政からの補助金の誘いがあったが断っている。その一番の理由は、補助金を使った運営では、経営が甘くなる。それが経営難になった時、安易にやめてしまう、また経営努力をあまりしない、という点である。

ひまわり亭では、一口5万円で20人の参入があった。また本田代表も借金をして5000万円を工面し、有限会社（資本金300万円）を立ちあげている。

また、少しでも初期投資を少なく済むように、家で不要になっている食器や調理器具をあつめたのも、「もったいない」の精神の1つであった。

##### (2) 企業運営について

補助金制度を断って会社を設立したことからも分かるように、経営に責任を持つことの重要性を強調していた。

また、人材についてもそれぞれの得意分野を十分に活かすことはもちろんであるが、お互い我を張らないように努めている。それは、お互いが出資者であり、企業運営の一員としての自覚を高めた結果からきたのではなかろうか。

レストラン運営においては、一年中お客が確保することは、特殊な有名店でもない限り波があるのはしかたがない事である。特に冬場は外出する人が少なくなる。それを埋めるために弁当（中食）事業を展開した。最近では、JR九州の観光事業とコラボして、駅弁（観光列車の弁当）の提案が通り実現までに至っている。

##### (3) 今後の展開について

講習+食事+調理実習の三部研修により、人吉球磨10市町村での、食のおもてなしネットワークづくり（農泊実践者及びGT）。

農家宿泊、農家レストラン、農産加工で、農家（田舎）の経済的自立を目指そうとしている。またインパウンドに繋げていく。これが、定住促進に繋がると考えている。

またこのような行動の中で、健康社会を作っていく。

事務局としての「食・農・人総合研究所リュウキンカの郷」を活用している。ここでの目的として

- ・「食・農・人」を学ぶ場（人材育成）
- ・新しい農泊を推進するための情報発信拠点
- ・新たな地域一体型の中間支援機能（法人化）

を上げていて、講座・研修会の開催（オーダーメイド型研修/テーマ：グリーンツーリズムによる地域活性化を学ぶ）。

農泊を核に、「食」を通じた魅力的な地域の暮らしを実現するために

- ・地域に住む人々が、地域への誇りや自信をもつこと（地域資源の魅力の再認識）
- ・生きがいでだけでなく、人儲けも金儲けもバランスよく経営できること。
- ・地域内の経済循環で、地域全体の収益性を創り出すこと。

これにより、持続可能な農山漁村の活性化へ繋がる。

## 5 視察を終えて

今後の地域活動を行う上で、国が主体的に補助金を設けている。例えば地域福祉においては、利用者からの利用料金が運営を賄うだけ徴収できないことが多い。それは直営ではコストが掛かりすぎること、民間に補ってもらうために補助金を出し続けなければならない場合もある。しかし、地域創生については、地域が利益を生む仕組みを作る様な場合においては、この度のひまわり亭のように、初めから補助金を当てにせずに行っていくのは理想的であるが、当初補助金で立ちあげるにしても、自力で運営できる目途ありきのスタートを切らないと、補助金がなくなった時点で消滅する可能性は大きいのである。

ひまわり亭が、立ち上げ時に行った、「出資を募る」という考え方は、補助を受けた場合でも、関係者自らが出資して行う事が、事業を持続させるうえで必要と考えられる。また、地域を巻き込み地域全体が潤う体制は、今後インバウンド事業を行う上で、大変重要な要素であると考えられる。また広域での連携をすることで、1市町村で行うより地域の存在をアピールすることになるし、その市町村に無い物を補完し、総合的な満足を与えることができるであろう。

笠岡市も観光事業は、重大施策の1つである。笠岡市は魚、果物、野菜においても多くの素晴らしい素材を持っている。これを使わないのは「もったいない」。また、多くの人たちが、その素材に工夫をこらし、地域の郷土料理を作っている。それらをどのようにコーディネートしていくかが課題である。

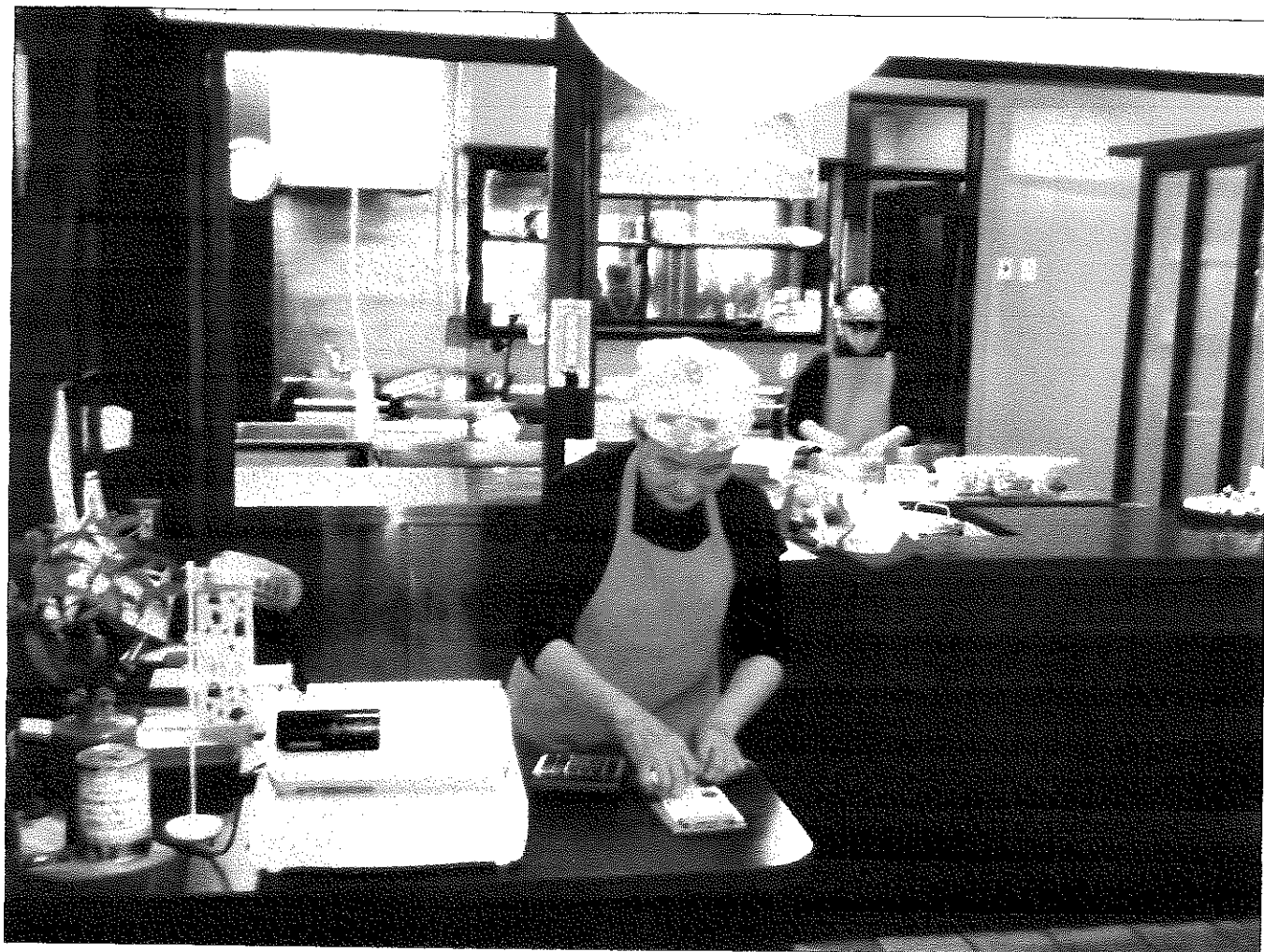
添付書類

視察資料     視察状況写真     名刺









【3】 鹿児島県 鹿児島市 NAGAYA TOWER

住 所	鹿児島県鹿児島市上之園町3-1
電 話	090(0407)1229
視察案件	ちよつとかわったイマドキの「NAGAYA」住人参加型住宅の現地視察
期 日	平成31年 2月 6日(水) 11時00分 から12時00分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	NAGAYA TOWER (ナガヤ タワー)
概 要	<p><b>1 視察目的</b>          駅そばに老若男女が、昔の長屋暮らしのような絆を再生・構築した暮らしを、タワー（ビル）で実現している賃貸住宅の取り組みを視察することで、笠岡市の駅そばで実現可能なかを検証する。</p> <p><b>2 鹿児島市の概要</b>          人口：597,215人、世帯数：275,298（平成31年1月1日現在）          面積：247.21㎢          鹿児島市は、九州の南端に位置する鹿児島県本渡のほぼ中央部にある。          南北に長い市街地で、市街地周辺はシラス台地である。地形的にコンパクトな市街地である。雄大な活火山桜島があり、風光明媚なことでも知られている。          人口は、2010年頃をピークにやや微減傾向である。</p> <p><b>3 NAGAYA TOWER (ナガヤ タワー)</b>          (1) コンセプト          「NAGAYA」の住人として、ちょうどいい距離感を保ちながら、仲良く、楽しく、安心して暮らす。          ・建物：          江戸時代の長屋のように、住民のみんなが知り合いで、出来ることは自分でしながらも、互いにさりげなく手を貸しあって暮らしている。皆が集う共有エリアが多く、趣味のスペース、空中庭園、共有キッチン・ダイニング、大きな風呂等          ・住民参加型住宅：          学生、夫婦、単身社会人、ファミリー、趣味を楽しむご隠居など、幅広い世代の方々、家族構成、ライフスタイルを選ぶ人が集まって暮らす、長屋のような住まい。食事会や映画会などを定期的に行なう。住人同士が顔見知りになり、名前を呼びあえる、心地よい環境を一緒につくることを目指している。          ・管理人兼相談員：          イベント企画、困りごと相談等の手助け。介護・医療ケアが必要になった際は、各方面との連携をしている。緊急時の24時間電話対応。調子が優れないときのために作業療法士がいる。          ・若者の家賃割引：          入居高齢者のゴミ出しや、共有エリアの掃除をしてくれる若者には家賃割引。          ・住宅+安心して暮らせるサービス：          希望者には、食事サービス、生活支援サービスを別途契約にて案内している。自宅</p>

で一人で生活するには不安な方に、短期・長期入居も可能。敷地内の堂園メディカルハウスとともにケア・

・1階にテナント、ショップ：

美容院・ネイルサロン・クリーニング・コンビニエンスストア・カフェがある。  
発達障害児の療育・学童保育の場として、児童発達支援所「まふいん」がある。

・子どもを大切に育てる場所：

建物の1室には、なんらかの事情で保護者と暮らせない子どもたちを養育する里親さんの部屋が有る。(厚生労働省：小規模住宅型自動養育事業)

孤食や欠食のこどもを支援するための、有志ボランティアが「ナポリ通りの子ども食堂」を、みんなのLDKで開催。

・最後まで自分の部屋で過ごせる：

介護保険サービスの手続きはベテランケアマネージャーと連携して手伝いをする。併せて堂園メディカルハウスの医療サポートも受けられる。

・「住むのが楽しい！」と感じられる場所：

NAGAYA TOWER のグランドデザインは、屋久島在住のアメリカ人設計士ウィリアム・ブラウワー氏で、住まう人の心地よさや使い勝手の良さを第一に考えた、木のぬくもりあふれるデザインが特徴。

1階のガーデン部分は、見るだけでなく触れて楽しむことができる。

・町のど真ん中にある：

場所は鹿児島中央駅のすぐ近く。講演や公突川沿いでお散歩コースにも。

買い物も楽々と保険域内。緑も多く、豊かな暮らしに便利な立地。

(2) 部屋の種類

ポイント：ペットは、他の住民に迷惑にならなければ可

4F, 5Fにはゆったりとした風呂有り。誰でも利用可  
バルコニーが広々。公園や桜島を見ながらのティータイムも。

2LDK：45.0㎡ バルコニー10.5㎡

洗面・トイレ・シャワー  
仕事場兼用一人暮らしの方  
二人暮らしの方 (シェア可)

1LDK-B：50.0㎡ バルコニー8.1㎡

洗面・トイレ・お風呂  
仕事場兼用一人暮らしの方  
二人暮らしの方 (シェア可)

1LDK-A：36.0㎡ バルコニー7.5㎡

洗面・トイレ・シャワー  
一人暮らしの方  
二人暮らしの方 (シェア可)

1R：20.0㎡ バルコニー4.0㎡

同フロアにキッチン・コインランドリー・浴室あり  
学生さん  
シンプルな一人暮らしの方  
高齢者の一人暮らし

### (3) 家賃

月6万～10万円（共益費5,000円込み）

70歳以上は管理費等2万5千円が必要

若者世代は、風呂掃除や高齢者のゴミ出しなどを引き受ければ家賃割引。

（管理のアルバイトが家賃に反映？）

## 4 視察内容

立地場所は調べていた通りで、駅から5分程、高齢者でも10分はかからない場所にある。建物内に入るには、自分のセキュリティ番号を押すか、管理人に連絡しないと扉は開かないようになっている。

### (1) 建物

6階建てで屋上広場があり、Vの字の形である。1階部分は、店舗が入っていて、2階からが居住部分となっている。Vの字の開口部は南向きで日差しが入りやすくなっている。3階4階の内側には、共有バルコニースペースが有り、日向ぼっこをしたり、ちょっとした屋外イベントに使用できる。各部屋の外側バルコニーは、仕切りが無く近いもの同士が話が出来たり、桜島の噴火で灰が降ってきたときに、近隣の部屋の人に洗濯物を取り込んでもらったりもしているようだ。

2階入り口に事務所が有り、その奥に共有スペースが有り、食事会や習い事に使用したり出来るようになっている。

### (2) 部屋

部屋のつくりは、2階はワンルーム（55,000円）で共有の風呂、コインランドリーが有る。3階からは、1LDK～2LDK（80,000～95,000円）まであり、いろいろな年代や、単身、夫婦、ペットと一緒になど様々である。70歳以上は、25,000円が必要だが、これは、高齢者の要望に応えるためのお金で、元気な方には貯えとしている。なお夫婦の場合は、2人で30,000円としている。

若い人の割引であるが、最大20,000円としているが、学校が忙しくなってきたらできなくなったりして、現在はその得点を受けている人はいないため、事務局がその分を受け持っている。

風呂は、各階共有の24時間使えるようになっている。

特筆すべき点は、2階のワンルームに、中学校を卒業後、鹿児島市内の専門学校に通う15～16歳の若者も入居している。これは、24時間体制の事務局の目の届く部屋なので、親も安心してあずけていられるとの事である。また、入居者皆さんの交流が有ることも、その理由の1つだそうだ。

### (3) 住民交流

この住居の最大の特徴である、住民交流であるが、月1回のイベントや、月1回の食事会がある。イベントとしては、餅つき大会、大正琴の演奏会、週1回のコンサートや近くである花火大会の屋上での見学等いろいろな事を行っている。食事会は各自持ち寄りで、持ち寄らない人は500円を支払う事になっている。食事会の料理もなかなかのごちそうだ、という事です。絵手紙、折り紙の講座も行っている。

このような交流事業を通じて、住民同士は、挨拶だけにとどまらず、お互いで世間話や、子どもたちの面倒を見たりもしている。

### (4) ファミリーホーム富永さんち

3階に富永さんが里親制度を運営している。様々な理由で保護者と暮らせない子ど

ものために行っていて、現在5人の利用者がいる。建物の住民も一役買ったりしている。家賃は、優遇しているそうです。

また、1階にある児童発達支援所「まふいん」の子どもたちと、2か月に1回交流イベントを催している。

(5) サポート

事務局は24時間電話対応を行っている。

- ・住まいの困りごと
- ・身体の困りごと

また、他院・ヘルパー・ケアマネージャーとも連携している

要支援・要介護を問わず、どのような方も最後まで（看取りも出来る）住める年齢制限なしの入居可。

5 視察を終えて

このNGAYA TOWERは、住居の専門店といえよう。ほとんどのマンション、アパートが、入居の決まりや制限を設けているが、ここでは居住のポリシー（昔の長屋のような付き合い）を打ち出し、先ずそれを説明し、納得の上で居住してもらっている。これは、鹿児島島の中心部、それも駅から5分という立地条件だからこそできる専門店的な展開ではなかろうか。

これを、笠岡の街中、駅前や番町の繁華街へ持って来ることが出来て場、高齢者のコンパクトシティ化も可能なのではないか、とも思える。笠岡版のこのような取り組みのヒントに値する例であった。

添付書類

視察資料     視察状況写真     名刺







